

日本簿記学会ニュース

No. 51:7 / 2011

《部会の経過報告》

第27回関西西部会は、平成23年5月28日(土)に沖縄国際大学(準備委員長:大城建夫氏)にて開催されました。詳しい内容は本紙部会記をご覧ください。第27回関東部会は、平成23年6月25日(土)に帝京大学(準備委員長:岩崎健久氏)にて開催されました。詳細は、次号にてお知らせする予定です。

《大会のご案内》

第27回全国大会を下記の予定で開催いたしますので、お知らせします。

日程:2011年8月25日(木)~8月27日(土)

場所:法政大学・市ヶ谷キャンパス

2011年8月25日(木)

選挙管理委員会 学会賞審査委員会 理事会

2011年8月26日(金)

参加者受付 11:30~17:40 外濠校舎 4階ロビー
会員総会 12:30~13:30 外濠校舎 7階薩埵ホール
役員選挙 13:40~17:50 外濠校舎 4階 S405教室
研究部会報告 13:40~15:10 外濠校舎 7階薩埵ホール
司会 高須教夫氏(兵庫県立大学)

- 簿記理論研究部会: 部長 橋本武久氏(京都産業大学)
「現代簿記論に関する研究: 現代簿記論の生成と展開について」
- 簿記教育研究部会: 部長 木戸田力氏(佐賀大学)
「明治以降の商業学校の簿記・会計教科書の歴史の研究」
- 簿記実務研究部会: 部長 戸田龍介氏(神奈川大学)
「地域振興のための簿記の役割- 農業・地場産業を対象として」

統一論題報告 15:30~17:30 外濠校舎 7階薩埵ホール

「財務諸表の変容と簿記処理の再検討」

司会 藤井秀樹氏(京都大学)

第1報告 溝上達也氏(松山大学)

「財務諸表の表示と簿記処理の変容」

第2報告 鳥飼裕一氏(あらた監査法人)

「負債と資本の区分- 利益計算に与える影響-」

第3報告 佐々木隆志氏(一橋大学)

「新しい会計学の考え方と簿記処理の変容- 顧客との契約から生ずる収益の認識を中心にして-」

第4報告 山下壽文氏(佐賀大学)

「IFRS導入によるわが国の引当金簿記処理の再検討」

懇親会 18:00~20:00 アルカディア市ヶ谷

2011年8月27日(土)

参加者受付 9:15~15:00

自由論題報告 9:30~12:25

【第一会場】外濠校舎 4階 S405教室

司会 瀧田輝己氏(同志社大学)

第1報告 堀江優子氏(明星大学)

「『資産負債アプローチ』と簿記- 収益認識の会計処理からの一考察-」

第2報告 国田清志氏(専修大学)

「公開草案『顧客との契約から生じる収益』への簿記からのアプローチ- 取引価格の事後変動を中心として-」

司会 田中建二氏(明治大学)

第3報告 吉岡正道氏(東京理科大学), 鈴木健太郎氏, 京

谷篤征氏(東京理科大学大学院)

「包括利益の表示形式に関する社会的合理性- 2011年度包括利益に関するアンケート調査研究-」

第4報告 今村 猛氏(公認会計士)

「負債の定義と認識についての一試案」

第5報告 岩崎 勇氏(九州大学)

「IFRS型会計モデルの複式簿記への影響」

【第二会場】外濠校舎 4階 S406教室

司会 渋谷武夫氏(専修大学)

第1報告 西村昭一郎氏(龍谷大学大学院特別専攻生)

「低価基準の研究」

第2報告 藤浪英也氏(白鷗大学)

「原価差異指導方法の研究- 標準差異分析からの展開-」

司会 上野清貴氏(中央大学)

第3報告 加藤美樹雄氏(神奈川県立厚木商業高等学校)

「バランスシート・アプローチによる簿記会計教育- 決算整理事項を中心とした考察-」

第4報告 木下貴博氏(松本大学)

「企業結合における取得法(Acquisition Method)の会計処理」

第5報告 大西新吾氏(仁愛女子短期大学)

「複式簿記の基底にあるもの- 意味場>の視点から-」

【第三会場】外濠校舎 4階 S407教室

司会 河崎照行氏(甲南大学)

第1報告 安部智博氏(大分大学大学院博士後期課程)

「米国における金融商品の会計基準に関する一考察」

第2報告 板橋雄大氏(明治大学)

「ダブルスタンダードによる帳簿組織の変化に関する一考察」

司会 中野常男氏(神戸大学)

第3報告 工藤栄一郎氏(熊本学園大学) 島本克彦氏(関西学院大学)

「近代的簿記教育制度化の到達点としての吉田良三『甲種商業簿記教科書』」

第4報告 江頭 彰氏(久留米市久留米商業高等学校)

「洋式簿記導入期の会計的認識・測定方法と計算構造」

第5報告 杉田武志氏(広島経済大学)

「17世紀ロンドン東インド会社における複式簿記導入の目的」

新理事会 12:30~13:20

昼食休憩 12:30~13:30

統一論題討論 13:30~15:30

日本簿記学会第27回全国大会準備委員会
委員長 菊谷正人

日本簿記学会 第 27 回関西部会記

沖繩国際大学
準備委員長 大 城 建 夫

日本簿記学会第 27 回関西部会は、2011 年 5 月 28 日（土）に沖繩国際大学にて開催された。今回の統一論題は、IFRS 導入による影響がいろいろな場面にあらわれてきていることを踏まえ、改めて簿記研究の立場から「IFRS 導入と簿記への影響」とし、座長に岩崎勇氏（九州大学）をお迎えした。天候が不安定な状況であったにもかかわらず当日参加者を含め 72 名の多数の会員にご参加いただいた。午前 11 時 30 分からは、理事会が開催された。

午後 1 時からは、清村英之氏（沖繩国際大学）の司会の下に、準備委員長大城の挨拶、会長代行の横山和夫氏（東京理科大学）による挨拶があり、ご逝去された会長の興津裕康氏（近畿大学名誉教授）への追悼、東北大震災に対するお悔やみとして出席者全員で黙禱をささげた。

司会の清村英之氏（沖繩国際大学）により、座長の岩崎勇氏（九州大学）と報告者として本田良巳氏（大阪経済大学）、齊野純子氏（甲南大学）、鶴池幸雄氏（沖繩国際大学）、岸川公紀氏（中村学園大学）の 4 名が紹介され、報告に入った。

第 1 報告は、本田良巳氏による「EU における国際会計基準の適用と適用除外」であった。EU における IAS39 の適用除外（カーブアウト）の問題について公正価値オプションとポートフォリオ・公正価値ヘッジをとりあげた。さらに、ポートフォリオ・公正価値ヘッジの記帳処理では、IAS39 の記帳処理とカーブアウトの記帳処理との相違が取り上げられた。そしてわが国と EU における IFRS 導入に関わる問題を報告された。

第 2 報告は、齊野純子氏による「FASB / IASB プロジェクトにおける財務諸表の表示と複式簿記—伝統的な複式簿記の特徴の変化とその含意—」であった。IFRS 導入によって、伝統的な複式簿記の特徴の意義は希薄化する。さらに、IFRS 導入時の複式簿記は、分類・記録・計算のための技術に過ぎず、それ以上の意味を見出し得ない。そのため複式簿記が分類技術に過ぎない以上、測定主体の判断は財務諸表

上の数値に直接的に反映されることを明らかにされた。

第 3 報告は、鶴池幸雄氏による「IFRSs 導入における収益の表示、認識と会計処理問題について」であった。IFRSs 導入による収益認識（ED）を日本基準と比較検討した。企業会計基準委員会の顧客との契約から生じる収益に関する論点の整理の個別論点を ED と詳細に比較分析された。さらに、IFRSs に係わる問題として、実務における収益の多様な認識の可能性、収益に係わる履行義務を収益要因とみなすのかそれとも引当金の対象とするのか、取引価格による収益の評価が IFRS の思考となじむことになるのか展開された。

第 4 報告は、岸川公紀氏による「IFRSs 導入における簿記教育への影響—初学者への指導を中心として—」であった。IFRSs の導入による簿記教育について、新学習指導要領に伴う「商業」の財務会計分野の改訂を検討し、IFRSs を意識した学習内容になっていることを確認された。そのため IFRSs の導入は、簿記教育においても多大な影響を及ぼすことを教科書の内容に関わらして示された。

休憩の後、引き続き、統一論題に対する討論会が行われた。座長の岩崎勇氏のコーディネートの下に、各報告者に対して、藤井秀樹氏（京都大学）、柴健次氏（関西大学）、新田忠誓氏（帝京大学）、宮本幸平氏（神戸学院大学）からの質問があり、活発な議論が展開された。

しかし討論会の途中で、台風接近による暴風警報発令について大学内の放送があり、その後の討論は課題として部会を終了することになった。そのため、横山和夫氏（東京理科大学）、清村英之氏（沖繩国際大学）、大城建夫氏（沖繩国際大学）の質問は取り上げることができなかった。お詫びを申し上げるものである。また懇親会も台風の影響で中止することになった。

第 27 回関西部会が本学で開催できたのは役員の先生方をはじめ関係各位のご協力のおかげであり、紙面で厚く御礼を申し上げます。また遠路多くの会員の先生方がご参加して下さい、重ねて御礼を申し上げます。

《興津裕康先生のご逝去を悼む》

日本簿記学会会長代行
東京理科大学教授 横山和夫

日本簿記学会第8代会長、近畿大学名誉教授興津裕康先生が2011年1月19日にご逝去されました。私は、その訃報に驚きと悲しみで接しました。

先生は、日本簿記学会設立の発起人として参加され、理事4期、副会長1期を務められ、2008年第24回全国大会に於て会長に選出されました。それ以来先生の学会に対するご尽力・ご功績ははかり知ることができません。

先生の会長就任中、2008年10月中村忠先生、2009年2月武田隆二先生、同年4月新井益太郎先生が次々と逝去され、直後の理事会と会員総会で先生は黙祷を捧げられました。その折「この場でまさか3人もの元会長に黙祷を捧げるとは、残念の極みだ。」と遺憾の意を表明されておられました。私にとりましては、それ以上に、興津先生が任期中に他界されたことは、かえすがえすも悔しい思いであります。

「日本簿記学会ニュース」1998年25:6号では「33年前の初講義」と題して随筆をかかれております。

そこでは「・・・こうして最初の時間は何とか切り抜けたものの、次に借方、貸方を教えるのに苦勞した。最近、アメリカの会計学（初級・・・わが国の簿記論がこれに該当する）の著書では、まず財務諸表やその数値を中心に企業経営のイロハが詳細に説明されており、その後で貸借対照表等式の説明がなされ、その次にやっと勘定を説明する方法が多く採られていることに気がつかれた方もいるだろう。勘定をあまり早い段階で教えるのも簿記を難しくしている一因となっているのではなかろうか。」と述べられています。研究者として高い業績を残された興津先生は、教育者としても初学者の簿記の手ほどきの原点を考えられ、実践されてこられた。この教育方法は憚りながら私も実行させていただいています。これほどさように先生から多くのものを学ばせていただきました。

今頃、先生は黄泉の国で、三先生とお会いして簿記学を論じておられることと思います。

長い間ありがとうございました。謹んで先生のご冥福をお祈り申し上げます。

《興津裕康先生を偲ぶ》

日本簿記学会副会長
近畿大学教授 浦崎直浩

興津裕康先生が2011年1月19日にご逝去されました。享年71歳でした。興津先生は、日本簿記学会設立の発起人として、設立当初から会員の募集や全国大会・部会の運営など学会の発展のために尽力されました。また、2008年8月に会長に選出されてからは、日本簿記学会奨励賞を新設されるなど、様々な改革を通じて会員の研究水準の向上に取り組まれました。

興津先生は、博愛の研究者・教育者でありました。若手研究者とりわけ大学院生について分け隔てのない研究報告の場が必要であると提案され、日本簿記学会全国大会前日に院生大会と銘打って研究報告会が開催されるようになりました。第1回の院生大会は、1999年9月に札幌で開催されました。院生大会では、研究報告の後にコメンテータの先生から方法論等を含め忌憚のない指摘があり、フロアの著名な先生方からも厳しい意見が出るなど、議論の白熱ぶりは学会に勝るものがありました。2011年度の

院生大会は、法政大学で第13回大会が開催される予定で、名称も全国大学院生簿記会計学研究报告大会となって引き継がれ発展しております。院生大会で報告した多くの大学院生が大学に職を得て活躍されている姿をみるにつけ、興津先生は「やって良かったな。」と喜んでおられました。

「浦崎君、近大で一緒にやらへんか。」とお声を掛けていただいてから23年が経過しました。研究、教育、学部運営をはじめ公私にわたりご指導をいただきました。また、近畿大学で日本簿記学会の全国大会を2回、関西部会を3回、お引き受けし、学会開催の意味とノウハウを学ぶことができました。「卒業旅行に行こう。」と誘われ、アメリカのオースチン・サンアントニオ・NY、オーストラリアのキャンベラ・シドニー、中国の大連・広州の旅に同行しました。先生は楽しそうに各地のビールを堪能されておられました。晩年、随筆でドイツ留学のことを振り返っておられましたが、興津裕康先生の人生はまさに「知の旅」であったように思います。ご冥福をお祈り申し上げます。

《日本簿記学会第27回全国大会における役員選挙について》

選挙管理委員会 古賀智敏

日本簿記学会第27回関西部会(於:沖縄国際大学,平成23年5月28日)理事会,および第27回関東部会(於:帝京大学,平成23年6月25日)理事会において,平成23年8月26日・27日に法政大学で開催される日本簿記学会第27回全国大会における役員選挙について検討が行われ,次の要領で選挙を行うことが決定された。

I 理事選挙について

- 1 理事の選挙は全国大会期間中の直接選挙により,平成23年8月26日(金)13時40分より17時50分まで,法政大学で行う。
- 2 選挙権を有する会員は,平成23年8月26日現在,本学会会員である者(8月25日の理事会で会員として入会を認められたものを含む)である。会費を本年度を含めて2年以上滞納している者は,選挙権を有しないが,7月25日までに会費を納入すれば復権する。
- 3 本学会会長経験者および理事連続二期を務めた会員は,被選挙権を有しない(その氏名は投票所に掲示される)。

- 4 投票は,10名連記無記名式とする。10名に満たない投票は有効とするが,同一人を複数連記した投票はその全体を無効とする。また,姓だけの記入および不正確な氏名の記入は,その記入についてのみ無効とする。
- 5 退職等により,所属機関のない会員は,当該会員の申し出によって所属を決定する。ただし,名誉教授は,当該名誉教授の大学に所属する。
- 6 理事選挙の結果は,翌日に法政大学にて公示する。

II 会長選挙について

- 1 新理事会は,平成23年8月27日(土)12時30分より法政大学にて開催し,理事による単記無記名の投票によって会長選挙を行う。
- 2 会長選挙の結果は,当該新理事会の席上で発表し,新会長は副会長を指名し,当該理事会で報告する。
- 3 新会長および副会長の氏名は,新理事会終了後に法政大学にて公示する。

以上

なお,会員の先生方には,日本簿記学会役員選挙内規を合わせてご覧ください。

事務局からのお知らせ

《会費振込のお願い》

過年度および本年度の会費を未納の方は,下記ゆうちょ銀行振替口座宛にお振り込みください。

口座番号 00190-9-23806

加入者名 日本簿記学会

《事務局への問い合わせについて》

事務局への問い合わせについては,連絡事務局にお願いいたします。

《住所・所属の変更について》

住所・所属の変更があった場合は,会費振込時に振替用紙にご記入いただくか,連絡事務局に書面にてお知らせください。

《日本簿記学会ホームページ》

日本簿記学会ホームページでは,大会・部会の案内,「日本簿記学会ニュース」のバックナンバー,日本簿記学会学会賞の推薦書などが入手可能となっております。

また,入会申込書もホームページからダウンロードできます。入会希望者にホームページのアドレスをご案内いただく等,会員の先生方のご活用をお願い申し上げます。

《編集後記》

今年度8月の法政大学における全国大会時に役員選挙が行われ,幹事もその時に改選になります。色々ご不便をおかけしたこともあるかと存じますが,大変勉強になりました。興津会長(横山会長代行)の下での事務局体制もあとわずかですが,気を引き締めて作業を全うしたいと考えております。

(清水・原・和田・渡邊(貴)・渡辺(雅))

発行所
編集兼
発行人

日本簿記学会事務局

連絡事務所

〒101-0021 東京都千代田区外神田 5-1-15

株式会社白桃書房

e-mail boki@hakutou.co.jp

URL <http://www.hakutou.co.jp/boki/>